

意義

2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針
(平成27年11月27日閣議決定)

大会開催を契機に、オリンピック・パラリンピック教育の推進によるスポーツの価値や効果の再認識を通じ、国際的な視野を持って世界の平和に向けて貢献できる人材を育成する。

➡ 上記の目的の為に、スポーツ庁において、**オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業**を実施する。

実施体制

オリパラ教育地域拠点（道府県、政令市）は、**オリパラ教育全国中核拠点（筑波大学、日本体育大学、早稲田大学）**と連携し、当該地域内で広くオリパラ教育を実施するとともに、その成果を当該地域内に発信する。


地域拠点における主な取組内容

- 地域拠点における体制整備とコーディネーターの指定
- オリパラ教育推進校の指定（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等）
- 全国セミナーへの参加及び地域拠点内セミナーの開催
- オリパラ教育推進校における実践
 - ① オリンピック・パラリンピックそのものについての学び
オリンピック・パラリンピックに関する知識、選手の体験・エピソード、大会を支える仕組み等を学ぶ。
 - ② オリンピック・パラリンピックを通じた学び
オリンピック・パラリンピックを契機として、スポーツの価値、参加国・地域の文化・言語、共生社会、持続可能な社会、我が国・地域の伝統・課題等を学ぶ。
- 地域ワークショップ・報告会の開催及び全国ワークショップへの参加

オリパラ教育の必要性

- 東京2020大会まで3年を切るなか、開催都市だけでなく、全国的なオリパラ・ムーブメントの推進が必要。特にパラリンピックへの関心向上が課題。
- オリパラ教育は、大会そのものへの興味関心の向上だけでなく、スポーツの価値への理解を深めるとともに、規範意識の涵養、国際・異文化理解、共生社会への理解等、多面的な教育的価値を持つ。我が国の無形のレガシーとして、オリパラ教育の推進が重要。

○平成27年度オリパラ・ムーブメント調査研究事業



Centre for Olympic Research and Education

宮城県


京都府

福岡県

筑波大学


各地域で実践的な調査研究を実施

- ・各地域での教員セミナーの実施
- ・オリパラ市民フォーラムの開催
- ・オリパラ推進校



↓ 調査研究の事例も踏まえ

○平成28年度オリパラ・ムーブメント全国展開事業



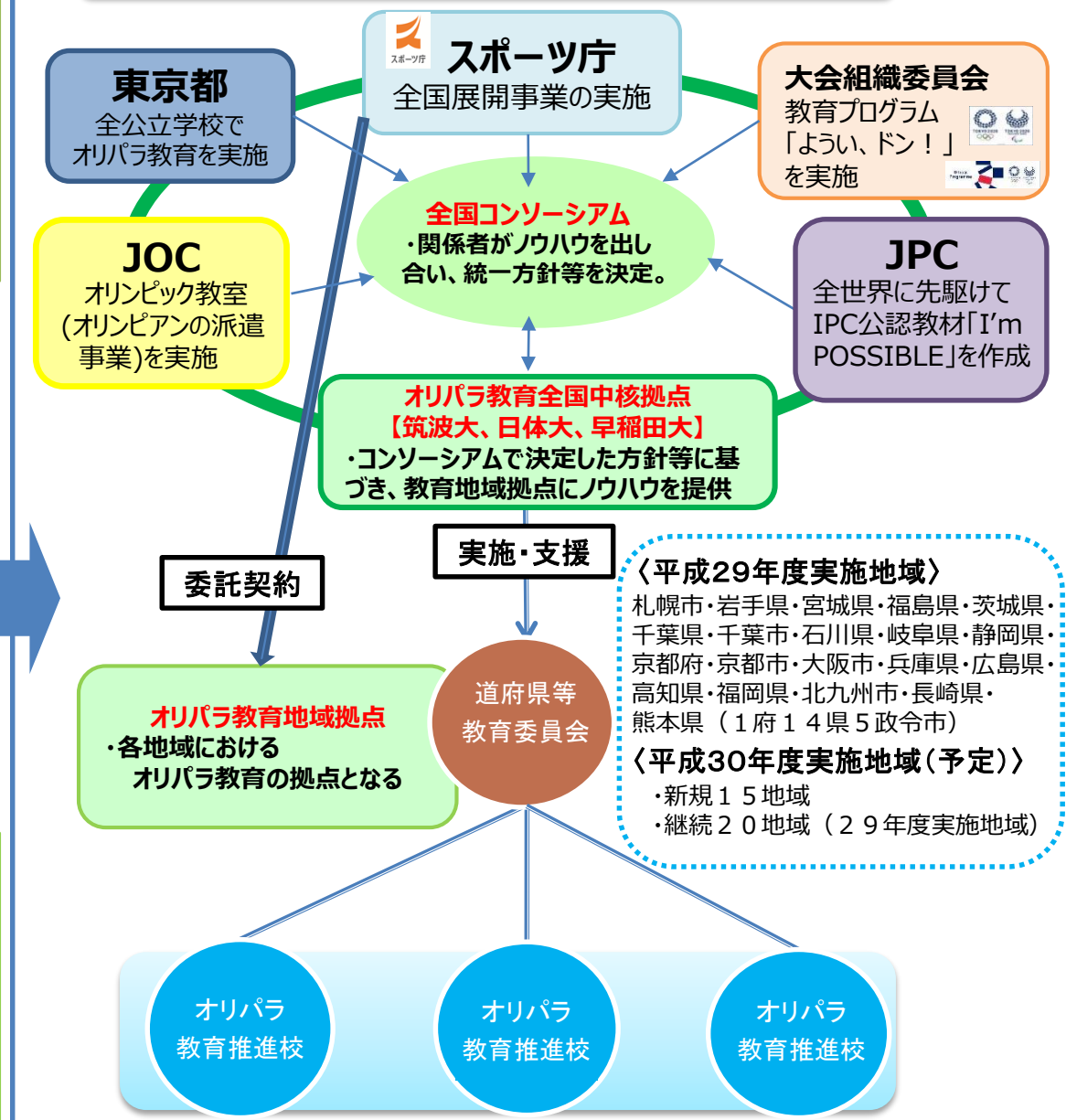
2府10県で実施

岩手県	大阪府
宮城県	広島県
茨城県	高知県
神奈川県	福岡県
石川県	長崎県
京都府	熊本県

全国で、オリパラ教育を実施

- ・各地域でのセミナー
- ・オリパラ推進校
- ・オリパラ競技体験
- ・市民フォーラムの開催

オリパラ・ムーブメント全国展開事業



〈平成29年度実施地域〉
札幌市・岩手県・宮城県・福島県・茨城県・
千葉県・千葉市・石川県・岐阜県・静岡県・
京都府・京都市・大阪市・兵庫県・広島県・
高知県・福岡県・北九州市・長崎県・
熊本県（1府14県5政令市）

〈平成30年度実施地域（予定）〉
・新規15地域
・継続20地域（29年度実施地域）

取組事例

〈推進校の取組 1〉

○学校名 宮城県石巻市渡波中学校（全校生徒参加）

○目標・ねらい

- ・オリパラの意義や価値を学習するとともに、おもてなしの心を育む。
- ・復興マラソン大会に参加することで、体力や精神力、ボランティア精神の育成・向上を目指すとともに、将来の地域復興を支える生徒を育成する。



○実施内容

「石巻復興マラソン大会参加」

①走者として （スポーツを“する”）

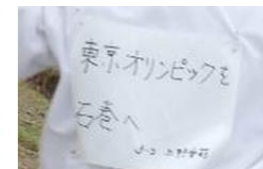
- ・大会を盛り上げるため、「石巻の復興」、「東京オリパラに向けた」メッセージをゼッケンに書き、背中につけて参加した。【写真上】

②応援者として （スポーツを“見る”）

- ・横断幕を制作し、沿道で掲げながら他の参加者を応援。【写真右】

③ボランティアとして （スポーツを“ささえる”）

- ・ボランティアとして参加者の荷物の管理係を担当し、大会運営補助を行った。



○実践の成果（アンケート結果）

- ・大会にいろんな立場から参加することで、多角的な楽しみ方をすることができた。
- ・全校生徒が復興や東京大会へのメッセージを記載して、大会に参加することにより、スポーツを通じた復興への意識（感謝の気持ち・助け合い、高めあう気持ち）が向上したとともに、互いに励ましあいながらゴールを目指すという思いがより一層深まった大会となった。

取組事例

〈推進校の取組 2〉

○学校名 茨城県鹿嶋市立平井小学校

○目標・ねらい

- ・新しいオリンピック種目に興味を持って応援しようとする心を育てるとともに、スポーツを愛する気持ちに共感し、自分自身のスポーツへの関心意欲を高める。
- ・パラリンピックの競技についての理解を深める。

○実施内容

「手作りオリパラかるた」の作成とかるた大会（3年生・4年生対象）

- ・オリパラに関する動画を視聴し、興味を持った競技やオリパラの歴史に関して調査。
- ・4年生が札を作成し、3年生が色塗りをを行い、共同作業でかるたを作成。
- ・2学年合同のかるた大会を実施。

○実践の成果（アンケート結果）

- ・児童の興味・関心に合わせて、自発的にオリンピック・パラリンピックに関する理解を深めることにつながった。
- ・特に新種目については、観戦の意欲を高めることができた。



手作りオリパラかるた作成の様子

取組事例

〈推進校の取組 3〉

○学校名 京都府立盲学校・京都府京都市立旭丘中学校

○目標・ねらい

・参加者（旭丘中学校生徒）が視覚に障害のある生徒と、視覚障害者スポーツを通じて交流することで、視覚障害について理解を深め、共にスポーツを楽しむ。

○実施内容

「フロアバレーボール体験」

①旭丘中学校生徒の事前教育

- ・視覚障害についての事前説明
- ・アイマスクをつけての体験（転がしたボールを受け取る・パスをする）
- ・フロアバレーボールの実技指導

②盲学校生徒との交流

- ・合同でパス練習等
- ・ゲーム形式（合同チームでの試合と学校対抗戦）

○実践の成果（アンケート結果）

- ・中学校生徒から、「アイマスクをつけて見えない状態でボールを受ける難しさがわかった。」
「ボールがどこから飛んでくるのか分からない状況がいかに大変なことがわかった」という感想が聞かれ、スポーツを通じた障害者理解を深める機会となった。
- ・アイマスクをつけてプレーをしていくうちに、視覚以外の聴覚や触覚等を使って様々な動きが出来るようになったことに気づく生徒も見られ、視覚障害者の努力を実感しているようであった。
- ・盲学校生徒にとっても近隣の生徒との交流を「またしたい」という意見も見られ、今まであまり行われてこなかった同じ地域に生活する同世代の交流につながった。



フロアバレーボールの実技指導

取組事例

〈推進校の取組 4〉

○学校名 長崎県長崎市立福田小学校 (4年生)

○目標・ねらい

- ・講演会を通じて、オリンピックとはどんな大会か興味を持つ。
- また、オリパラクイズを解きながら、オリパラについての見識を深めたり、興味や関心を高めたりすることで、東京大会では何らかの形で関わっていききたいという気持ちを育む。



講演会の模様

○実施内容

【講演会】

- ・オリンピックシンボル・オリンピズム等の説明
- ・講師による講演会
- ・トランポリンの実演・実技指導

【授業（学活）における実践】

- ・講演会時の写真を通じた振り返り
- ・“オリンピックとは、どんな大会なのか”をグループ学習で考える
- ・オリパラクイズを解く
- ・授業の振り返り



授業での取組

○実践の成果（アンケート結果）

- ・メディアで紹介されにくい競技のことを知ることにより、オリンピックには多くの競技があり、世界中から多くの人が集まることを知る機会となったので、オリンピックの啓発促進につながった。
- ・オリンピックをはじめとするさまざまなスポーツは選手が主役であるが、実は選手が活躍するためには多くの人をサポートをしているということに今回の取組を機に、子どもたちは気づくことができた。一流選手になれるように頑張ることも重要であるが、ボランティアとして参加したり、現地で応援することもスポーツに関わる重要な役割なので、東京大会ではいろいろな関わり方をしてほしい。